

あおいもなか

# 葵最中

東三河／豊川市



## 地元の人々に愛され続ける菓子

徳川家の象徴とも言える葵の紋。この葵紋発祥の地とされているのが、豊川市小坂井町である。紹介する『葵最中』の皮には、その葵紋が焼きつけられている。町に名産品を作ろうという思いから、様々な「葵」と冠する品が開発されたのが1960年代。の中でも、『葵最中』は今もなお地元の方に愛され続け、町を代表するみやげとして重宝されている。

## 小坂井と「葵」の関係

戦国時代初期である1529年、当時三河地方で勢力争いをしていた岡崎城主松平清康(徳川家康の祖父)と、戦国武将牧野信成との戦の折に、当時の伊奈城主(小坂井町)であった本多正忠は清康軍に参加し、これに勝利した。その祝宴のため、清康を伊奈城へ招いた正忠は城内の花ヶ池にあった葵の葉を煮いで酒肴を出したところ、清康は大変に喜んだという。以後、戦に勝利した際の縁起ものとして葵を重宝し、後には家紋とするほどになった。



お問い合わせ

[TEL]0533-78-3333

小坂井町商工会 [FAX]0533-78-2331

[URL]<http://www.p-station.net/~kozakai/>

2010 Aichi Prefecture

**愛知のうまいもん150**